

I 指導上の参考事項

1 わい性台りんごのわい化と収量

1) 背景と特徴

早期多収を狙いとするわい性台りんごの栽培で、その樹のわい化程度は、花芽着生の良否につながる重要な点である。わい化の度合は台木の種類によって異なるものの、土壌や気象条件によって異なるようである。土壌の異なる地帯に植栽されたわい性台りんごが同樹令でわい化に差がみられたので、その収量もあわせて参考に供したい。

2) 技術内容

三紀土壌におけるわい性台りんごの樹の生育は、洪積土壌に比べ発育枝の発生少なく、新梢長短く、樹冠は小さく、累積収量が多かった。

しかし、これら土壌からの果実の品質は差がみられなかった。

3) 普及上の問題点

わい性りんご栽培の推進上、問題になる栽培本数は、地質土壌の違いによることが大きいと考えられるが、このわい化の要因は、降雨量によるものか土壌水分によるものか、また台木の違いによる土壌の適合性などは今後検討を要する点であるが、植栽にあたっては、これらの点を考慮し決めるべきである。

4) 試験成績の概要

- (1) 試験課題名 わい性台によるりんごの早期多収
- (2) 試験年次および場所 昭48～52年 岩手園試
- (3) 試験方法

○台木および栽植距離

調査場所	品種 ／ 台木	樹令	栽植距離	調査 本数	その他
本場	ふじ ／ M26	8	6×3m 大迫(6×4m)	8	棒利用 スピンドル仕立
大迫試験場	ふじ/M9	4	} 6×3m 本場(4×2.5m)	6	大迫は棒、本場トレリス のスレンダースピンドル仕立
	ふじ/M9	4		4	

○調査場所の条件

場所	地質土壌	降水量	備考
本場	洪積層腐植質火山灰土 (やや水もち良い)	1400 %	1年苗定植(45年)
大迫試験地	第三紀土壌礫に富む埴土 (排水良)	1000 %	2年苗定植(46年)

(4) 試験結果

- ふじでは、洪積火山灰土壌園に比較し、三紀土壌園で、8年生M26は発育枝の発生少なく、新梢長短く、樹冠は小さかったが、累積収量は多かった。4年生M9はどの園も定植3年目で初結実したが、三紀土壌園では着果量も多く、発育枝短く、樹冠も小さかった。
- 定植3年目のスター/M9はいずれの園も結実はみられなかったが、三紀土壌園では発育枝長は短く、樹冠も小さかった。
- 果実品質はふじ/M26、M9とも両園地産に差はなかった。
- 以上のことから地質など土壌環境により樹相、結実性に差がみられ、台木の違いによる土壌の適合性、適正な栽植距離などの検討の必要性が示唆された。

(5) 主要成果の具体的データ

品質 台木	樹令	地質	栽植 距離	樹高 m	樹冠 m		新梢長 cm	1樹当たり		1果重 g	1樹当たり 累積収量 kg
					長	巾		収量	個数		
ふじ M26	8	洪積	6×3 ^m	3.87	3.76	4.42	32.4	28.2 ^{kg}	197	263	(139ヶ) 33.5
		三紀	6×4	2.97	3.32	3.25	31.9	56.1	236	245	(406ヶ) 100.0
ふじ M9	4	洪積	4×2.5	2.08	1.45	1.48	64.9	0.02	0.1	130	0.02
		三紀	6×3	1.93	1.73	1.58	34.0	2.8	10.4	262	2.8
スター M9	4	洪積	4×2.5	2.19	2.06	1.87	45.8	—	—	—	—
		三紀	6×3	2.17	1.25	1.80	21.8	—	—	—	—

※ 累積収量は48～51年